

けふ 野辺をあるきてー佐野一彦の「伊深日記」ー展



「伊深日記」

●会 期 ～ 2014年 2月 2日(日)

●会 場 企画展示室

観覧料無料

佐野一彦(1903～1997)は東京生まれ、学生時代に哲学や文化史を学び、ドイツ留学後、神戸の大学で教鞭をとっていました。1945年(昭和20年)4月、戦争が激しくなると、家族とともに加茂郡伊深村(現・美濃加茂市伊深町)に疎開、やがて定住します。民俗学も研究していた佐野は、疎開直後から伊深の暮らしを日記に書きはじめます。それが、「伊深日記」です。日々の食事の内容は絵入りで説明を加え、道ばたで見つけた草木は、観察したとおり克明に記しています。そして、さまざまな出来事を通して人とのつながりのひとつひとつを綴っています。人々の営みをフィールドワークを通して記録した、現代史の観点から見ても貴重なものといえます。戦争という極限の状況の中、伊深に疎開した佐野は、あふれる自然と風土に一種の「豊かさ」を感じたのかもしれません。本展をとおり、つましくも満たされた気持ちで過ごした伊深の空気を感じてください。

ミュージアムトーク 企画展の展示解説を行います。

1月5日(日) ①11:00～ ②14:00～

forum & event

●会期

●会場

●内容

ミュージアムイベント 「伊深日記」の朗読とおはなし	2014年 1月11日(土) 14:00～15:00	生活体験館	特別講座(四季を食べる講座)に引き続き開催するものです。 次女・佐野綾目さんによる朗読とおはなしをお聴きください。 【聴講自由】参加料:無料 定員:50名
ミュージアムイベント 「伊深日記」を読む	2014年 1月18日(土) 13:00～15:00	伊深交流センター (美濃加茂市伊深町)	A.戦中・戦後の食事の様子を中心に。 B.描かれた伊深の地図と史跡を中心に。 各回ともAとBを前半・後半に分けて読みます。 参加料:100円(テキスト代) 定員:20名 ※申し込み:当日12:30より受付
ミュージアムイベント 「伊深日記」をたどる	2014年 1月25日(土) 13:30～15:00	美濃加茂市伊深町	伊深を歩き、「伊深日記」を追体験します。 参加料:無料 定員:20名 ※申し込み:当日13:00より受付 ※伊深交流センター集合、解散です。直接現地へお越しください。

SHOP NEWS

ミュージアムグッズの紹介

おばあちゃんちのおかって
番外編 漬物特集

A5判 50ページ 150円

平成23年1月に開催した特別講座「漬物フェスティバル」で集まった漬物、67種類を食材別にまとめたものです。

また、昔ながらの食材を無駄にしない知識や、伝承会員の漬物にまつわる思い出話なども、イラストとともに紹介してありますので、漬物を食べない人にも手にとって頂きたいと思ひます。

※総合案内横ミュージアムショップにて販売しております。



新収蔵 村瀬卓郎展

●会 期 12月 7日(土)
～ 2014年1月26日(日)

●会 場 美術工芸展示室

観覧料無料

美濃加茂市蜂屋町出身の洋画家・村瀬卓郎。美術教諭を続けながら現展を中心に発表を重ねました。2012年度の新収蔵作品を展示します。



「田園の残映」

みのかも文化の森
美濃加茂市民ミュージアム

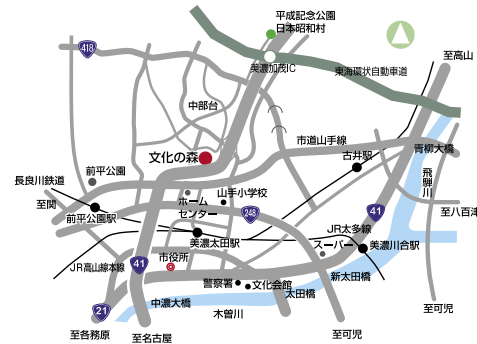
MINOKAMO CITY MUSEUM

〒505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上峰屋3299-1
TEL.0574-28-1110 FAX.0574-28-1104
http://www.forest.minokamo.gifu.jp/

■ご利用のご案内

開館時間 9:00～17:00

(ただし、展示以外の施設利用は8:30から22:00まで)

休館日 月曜日(ただし、祝日の場合は開館し、直後の平日休館)
年末年始

MUSEUM NEWS

vol.72

みのかも文化の森

2014年 1/5発行

森

森の観察日記 22

ネコヤナギ(ヤナギ科)

早春、水辺でよく見かける植物です。
大きな花穂が印象的で、銀白色で柔らかく、猫の尻尾のようにみえることから「猫の尾をした柳」という意味でこの名前が付けられたそうです。



BUNKANOMORI EXHIBITION !

加茂の遺跡探訪展

●会 期 2014年 2月 8日(土)～ 3月23日(日)

会期中の休館日 2014年 2月10日、17日、24日 3月 3日、10日、17日

●会 場 企画展示室

観覧料無料



赤彩壺(為岡遺跡/美濃加茂市下米田町)

1万年をさかのぼる歴史が知られる、加茂という地域は、これまでに各時代の遺跡が調査・記録されてきました。発掘調査を通じて、加茂の歴史を振り返ると共に今も現地に残る遺跡を探訪します。
また、伝えられてきた文化遺産や歴史と地域、それに関わる市民活動を紹介します。
「みのかも定住自立圏」事業。



発掘された為岡遺跡

forum & event

●日時

●会場

●内容

ミュージアムトーク	2月 9日(日) 3月 5日(水) ①11:00～12:00 ②13:00～14:00	企画展示室	企画展の解説と併せて、博物館のスタッフと気軽にお話しながら、ゆっくりとホンモノの出土品に「さわる」ことができます。 参加料:無料 申し込み:当日受付
ミュージアムイベント 堀江武史ワークショップ	2月16日(日) 13:00～16:00	工芸室	作家と共に博物館の収蔵庫で縄文土器などの出土品に手でふれ、森にある遺跡を体感する「さわる」ツアーを通じて、「過去」を探してみます。古代に生きた人々と私たちを自由に意識しながら、作品制作を行い、展示します。 参加料:無料 定員:15名 事前申し込み:1月5日(日)～2月9日(日)
ミュージアムフォーラム 文化遺産と市民 ーその関わり合いを考えるー	2月23日(日) 13:00～16:30	緑のホール	堀江武史 ― 1967年東京生まれ。府中工房代表。國學院大学で考古学を学んだ後、研究と執筆活動、文化財修復を続けると共に、縄文と現代美術との協同をテーマに考察を深めている。 私たちの暮らす「まち」には、文化遺産が守り伝えられてきました。近年、それらの魅力や価値を現代に生きる私たち自身が新たに引き出すことで、人々との関わり合いを深めたり広げたりする活動が取り組まれています。フォーラムでは、活動の報告(NPO法人楽古・NPO法人ニワ里ねっと・加茂の文化遺産探訪実行委員会・阿智村役場)、パネルディスカッションを通じて、現状と今後を意見交換します。 参加料:無料 定員:120名 申し込み:当日受付



事前申し込みについて

はがき(住所、氏名、電話番号、希望講座を記入)、ご来館、文化の森ホームページ講座申込専用フォームのいずれかの方法でお申し込みください。 ■電話、FAXによる受付は行いません。 ■応募者多数の場合は抽選となります。

イベント

minokamo city museum

●日時	●名称	●会場	●参加料	●定員	●内容
1/18(土) 14:00～15:00	第135回 森の朗読会	緑のホール	無料	120名	作品:「回想電車」 赤川次郎/作 「ふたりの名前」 石田衣良/作
2/15(土) 14:00～15:00	第136回 森の朗読会	緑のホール	無料	120名	作品:「スーフと馬頭琴」(モンゴルの童話) 藤 公之介/再話 「くじけないで」 柴田トヨ/作 「酒のかす」(落語ばなし) 志賀直哉/作 「小僧の神様」
3/15(土) 14:00～15:00	第137回 森の朗読会	緑のホール	無料	120名	作品:「稲むらの火」(民話) 川崎大治/脚本 『また次の春へ』より 重松 清/作 「五百羅漢」
～3/16(日)	ていねいな暮らしと 道具展	民具展示館	—	—	昔の道具から、人々の知恵や生活の苦労などを 知ります。学校の学習活動とも連携し、体験しな がら学びます。

アートな1日講座

minokamo city museum

●日時	●名称	●内容	●申し込み方法	●会場	●参加料	●定員
1/26(日) 13:00～16:00	馬の絵付け	2014年は午年です。馬の絵 付けをしましょう。 持ち物:エプロン、タオル	当日12:30より受付	エントランス ホール	600円	20名
2/23(日) 13:00～16:00	子育て女性応援企画 フェルト	未就学児をもつ親御さんが対 象の講座です。フェルトで小物 づくりに挑戦します。 託児料金:1人300円 ※1家族子ども2人まで 持ち物:エプロン、タオル	事前申し込み [1/7(火)～1/26(日)]	工芸室	500円	20名
3/23(日) 13:00～16:00	陶芸 (手びねりまたはろくろ)	手びねりの技法またはろくろで 簡単な器をつくります。出来上 がった作品は、後日お渡ししま す(送付の場合有料) 持ち物:エプロン、タオル	当日12:30より受付	陶芸室	1000円	20名

文化の森ボランティア募集

「文化の森でなにかしたい！」
「ボランティアに関心がある！」
そんな皆さんのご応募お待ちしております。

●申し込み方法 直接またはお電話

●ボランティア説明会 4/5(土) 10:00～

●特典

みのかも文化の森が主催する他館の視察や見学会に参加できます。年4回ほど開催する企画展解説会に無料で参加できます。また、4月以降回数研修会を実施いたします。
ボランティア活動として無償での活動となります。

展示ガイド…… 常設展示室の案内や展示品に親しむことので
きるようなイベントの企画をしています。

アート……… 美術分野の講座や美術の企画のお手伝いなど
をします。

生活体験……… 主に生活体験館や民具展示館において、来場者へ
の解説や講座・イベントの案内をします。

学習支援……… 児童生徒が文化の森で学習する際のお手伝
いをします。

伝承料理の会… 伝承料理の研究や講座の企画をします。

イベント……… 森のコンサートを中心にイベントのお手伝い
をします。

*活動日などはボランティアの方々と話し合って決めていきます。
*各分野5～10名募集します。

四季を食べる講座

minokamo city museum

ボランティア「伝承料理の会」と

一緒にこの地域に伝わる料理を
作ります。料理にまつわる楽しい
お話も聞けます。

会 場:生活体験館

時 間:10:00～13:00

定 員:20名

持ち物:エプロン、三角巾

●開催日	●名称	●内容	●申し込み方法	●参加料
2/4(火)	手作りみそと 野菜料理	みそを手作りするなんて…でき る主婦のお手本みたいです。	事前申し込み [1/7(火)～1/21(火)]	300円
2/16(日)	春祭りと餅なげ	春だ!まつりだ!ご馳走だ!えー い!お餅も投げちゃうぞー!	事前申し込み [1/19(日)～2/2(日)]	500円

ていねいな暮らし講座

minokamo city museum

●日時	●名称	●内容	●申し込み方法	●会場	●参加料	●定員
～1/5(日)	年中行事 門松たて	かつてこの地域でみられた簡 素な門松を立てます。 (自由観覧)	—	生活体験館 (まゆの家)	無料	—
1/12(日) 13:00～15:00	ワラない	ワラを燃り合わせ縄をないま す。親子歓迎。定員はありま せんが、ワラがなくなり次第 終了します。	当日12:30～14:30まで 受付		100円	
2/8(土) 4/3(木)	年中行事 ひなかざり	土びなを飾り、野山の花をそ なえます。(自由観覧)	—		無料	

ミュージアムレポート

● けふ 野辺をあるきて
● 佐野一彦の「伊深日記」展のこと

● 現在、企画展示室では、伊深に疎開しその後定住した佐野一彦が書いた「伊
深日記」を展示しています。2月2日まで。

● 展示に向けて、まず日記を読む作業が始まりました。次女の佐野綾目さん
にご指導いただき、当時のことを教えていただきながら読み進めていきまし
た。日記には、食事の内容の記録や村の暮らしの様子が克明に記されており、
その細かさに圧倒されました。佐野は、10代の頃から亡くなるまで日記を書
いています。日記はそれぞれ名前が付けられており、折々の節目に名を付け
変えていたようです。疎開した昭和20年4月から「伊深日記」と名付け、一
家の伊深での暮らしを綴っています(「伊深日記」の名は昭和27年10月まで)。

● また、日記を読む作業とともに目録作りも行いました。目録はほかに、教鞭
をとっていた大学の講義録や伊深の歴史と民俗をまとめた冊子などの著作物、
友人、知人からの手紙、持っていた書籍があり、現在作成しています。

● 佐野が伊深で暮らし始めたころ、人はみな、戦争という極限状態を生きて
いました。そんな中、目の当たりにしたのは、つつましく日々の生業にいそし
み、互いを思いやり、あたたかく心を配る伊深の村人の姿でした。そのひとつ
ひとつがていねいに記された「伊深日記」を今回、はじめて展示します。ぜひ
ご覧いただき、「伊深日記」にのこされた伊深の暮らしの空気を感じていただ
ければ幸いです。

(Y・W)



「日記を読む」



「展示の様子」